

国際海事展参加報告
株式会社名村造船所

Posidonia 2018 国際海事展アテンド報告

古賀 大地*

Daichi Koga



首題の国際海事展は、ノルウェーのオスロで開催されるノルシップ国際海事展と並ぶ世界の主要海事展の一つで、同海事展と毎年交代でギリシャのアテネで開催されており、今回は本年 6 月 4 日(月)～6 月 8 日(金)の 5 日間にわたって開催されました。(写真 1 参照)

弊社は日本船舶輸出組合(以下、輸出組合)の組合員として出展し、営業担当ならびに技術担当それぞれ 1 名ずつ、佐世保重工業からは技術担当 1 名の計 3 名にて参加しました。

出展に際しましては、38,000 m³ LAG/LPG CARRIER の模型船を展示し、会社紹介パネルならびに会社パンフレットを使い、随時、来訪者に説明を行いました。

以下、本海事展についての報告と技術担当として本海事展参加によって得られた知見等について紹介します。



写真 1 会場外観

原稿受理日：July 27, 2018

*株式会社名村造船所 船舶海洋事業部 設計本部 基本設計部 計画設計課

1. 海事展概要

Posidonia 国際海事展は、アテネ国際空港から近い、METROPOLITAN EXPO CENTRE にて開催され、今年で 26 回目を迎えました。

今や海事展という枠を超え、世界の海事産業における重要なイベントとなった Posidonia 国際海事展には、今回も世界中から人と情報が集まっており、地元への経済効果は数十億円と非常に大きく、ギリシャにとっても重要な 1 週間となっているそうです。

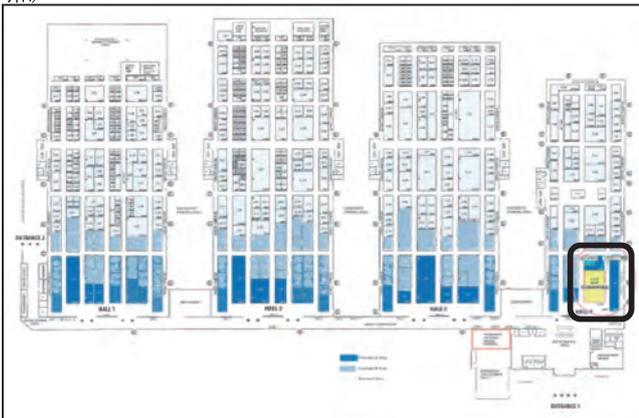
輸出組合の報告によると、今回の海事展には、92 ヶ国、2,011 社の参加があり、入場者数は過去最高の約 23,527 名を記録するなど、大盛況でした。

日本国内からは海運会社や造船会社からの来訪者も多く、海事展だけでなく、この機会にギリシャ船主を訪問し、新規商談を成立させることも Posidonia 期間中の名物となっており、受け入れ側のギリシャ船主も、自宅へ顧客を招いて毎晩遅くまでパーティーを催し、まるでお祭りのように賑やかな一週間となります。

2. 日本スタンド

2. 1 名村グループのブース

本国際海事展会場は、4 つのホールに分かれています。日本スタンドは、会場入口正面のホール 4 で、またホール 4 内でも入口正面となっており、来場者の目につき易く展示場所としては有利な位置になっていました。(第 1 図参照)



第 1 図 会場全体図

日本スタンド中央には、桜や畳が敷いてあるベンチが用意されており、それを囲むように各造船所ブースが配置されていました。各造船所間には仕切り等はなく、来訪者は自由に行き来できるようになっています。(写真 2 参照)



写真 2 日本スタンドの様子

各社が積極的な PR 活動を展開し、来訪者に対して、自社が開発した新船型、燃費低減船のエコシップ、NOx・SOx 排出規制を考慮した新船型などをアピールしていました。

弊社は輸出組合の一員として、日本スタンドの一角にブースを出展しました。

弊社ブースはホール 4 の中でも、特に入り口に近く、横は通路となっており来場者の交通量も多かったことから、比較的立ち寄り易い場所に配置されていました。



写真 3 弊社スタンド外観

(左より、弊社谷川氏、佐世保重工業宮脇氏、筆者)

弊社ブースでは、企業理念である「存在感」の文字とともに、この数年ギリシャ船主に多く発注いただいたアフラマックスタンカーをメインとして、ギリシャ船主向けに引き合いや建造実績が多い船型をパネルに掲示し、加えて、今後将来ガスキャリアセクターへの進出を目指して開発した 38,000 m³ LAG/LPG CARRIER の模型を展示しました。また、パネル横に備え付けてあるモニターには、会社紹介ビデオと HIGH BULK 34E の紹介動画を繰り返し上映していました。(写真 3 参照)

2. 2 日本船舶輸出組合メンバー

今回の日本スタンドのアテンダントは事務局を含めて約20名であり、そのうち造船所からは17名が参加していました。営業の方だけではなく、現場・設計部門からと様々な部署の方が集まっていました。やはり最初は各社毎に固まりがちでしたが、初日からの団体行動や食事をきっかけに、早い段階で打ち解ける事が出来ました。くだけた話や真面目な話など話題は尽きず、また仕事についての意見交換ができ、非常に有意義だったと感じています。

輸出組合メンバーには一体感が持てるよう、胸と背中に「JAPAN」とプリントされたポロシャツが支給され、各アテンダントはそれを着てブースアテンドに臨みました。

今回、弊社及び以下造船所9社が共に日本スタンドに出展していました。□内は各社が展示していた模型船または展示内容です。

- 今治造船株式会社 [20,000 TEU CONTAINER CARRIER]
- ジャパン マリンユナイテッド株式会社
[7,500 UNITS PURE CAR / TRUCK CARRIER]
- サノヤス造船株式会社 [60,000DWT BULK CARRIER]
- 川崎重工業株式会社 [84,000m³ LPG FUELED LPG CARRIER]
- 三菱造船株式会社 [3D ホログラムによる会社説明]
- 株式会社大島造船所 [64,900DWT BULK CARRIER]
- 株式会社新来島どっく [35,000DWT CHEMICAL TANKER]
- 住友重機械マリンエンジニアリング株式会社
[104,300DWT TANKER]
- 三井E&S造船株式会社 [60,200DWT BULK CARRIER]

日本舶用工業会も参加されており、会員企業または賛助会員であるヤンマー株式会社、中国塗料株式会社、商船三井テクノトレード株式会社、ダイハツディーゼル株式会社、富士電機株式会社、三菱重工マリンマシナリ株式会社、横河電子機器株式会社の7社により省エネ船やSOx スクラバー等の最新技術や製品についての紹介が行われていました。

3. 海事展開催

3. 1 開幕

6月4日(月)には日本スタンドの開場式が行われました。清水駐ギリシャ日本国大使(以下、清水大使)、村山日本船舶輸出組合理事長(以下、村山理事長)、加藤日本造船工業会会長、山田日本舶用工業会会長、富士原日本海事協会会長によるテープカットが行われ、式前から国内造船所幹部、商社の方や報道関係者など多数の人が集まっていました。

(写真4参照)

テープカットの後、清水大使が日本スタンドの各造船所ブースを視察され、弊社も簡単に会社紹介および弊社造船の説明を行いました。清水大使からは、「ギリシャ船主向けの仕事は多いのですか?」、「付き合いの深いギリシャ船主はいますか?」等の質問がありました。

ギリシャは海事産業が非常に盛んであり、清水大使も積極的にギリシャ船主を訪問され、会合を持たれていると伺い、日本の海事産業への後方支援が行われているのだと感じました。



写真4 テープカットの様子

また、別会場ではPosidonia2018 オフィシャルオープニングセレモニーが開催され、ギリシャのアレクシス・ツィプラス首相により開会宣言が行われ、海事展に国の首相が出席するというところに、改めて規模の大きさ、注力具合が伺えました。セレモニー後の20時頃にツィプラス首相が日本スタンドを訪問するという連絡があり、アテンダントは全員待機していましたが、セレモニーの演説等が長引いたようで、日本スタンドに来場したのは21時過ぎでした。報道や護衛に囲まれて近寄ることはできず、あっという間に通り過ぎて行ってしまいました。(写真5参照)

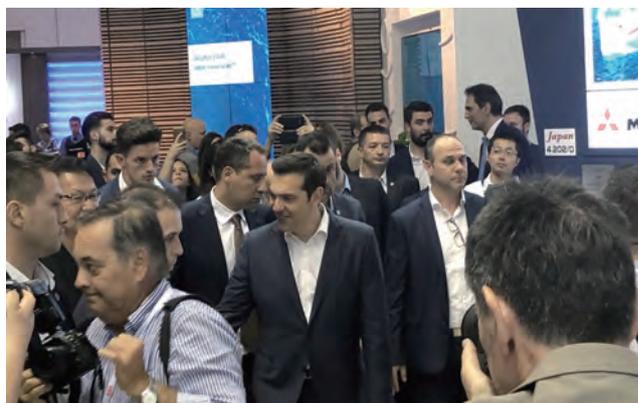


写真5 ツィプラス首相の訪問の様子

3. 2 来訪者対応

開催期間中の来訪者は、ブローカーや地元の人が多数でしたが、取引実績のある船主にも立ち寄って頂きました。

来訪者の中には打ち合わせ等で面識のある方もいて、久々の再開に非常に嬉しく感じました。

多くの来訪者は、展示している 38,000 m³ LAG/LPG CARRIER の模型船 (写真 6 参照) を見て立ち止まってくださいました。

Deck tank は 2 タンク装備しているのを見て、「LNG 燃料タンクなのか?」、「エンジンはガス焚き対応か?」、「Deck tank を 2 タンク設けるメリットは?」等の質問が多くありました。一部の来訪者からは、より詳細に各船種の新規則適用船のリリース時期や建造可能時期に関する質問もありました。



写真 6 38,000m³ LAG/LPG CARRIER の模型

パネルやモニター動画の内容に足を止めてくださる来訪者も多数いらっしゃいました。

性能的な質問は少なかったものの、「新規則関連は適用済なのか?」、「NOx 対応案、SOx スクラバーは搭載可能なのか?」と言った質問も多く、欧州地区の環境対策の意識の高さも感じる事ができました。

その他にも弊社の最新船型では、実海域における波浪による船速低下の低減を目的として、バルバスバウを取り止めたバルブレスを採用した船首形状としていますが、「なぜバルバスバウがないのか?バルバスバウは無い方が良いのか?」と言う質問が多く、英語での技術的なやり取り、回答に苦労しましたが、ご理解は頂けたと思います。

来訪者との会話で特に印象的だったのは、佐世保重工業の知名度が非常に高いことです。来訪者にはオペレーターやテクニカル出身の方も多く、佐世保重工業にて建造実績がある、あるいは建造中や修繕中に駐在していたと懐かし

そうに話す方もおり、その場で佐世保重工業の建造記録を確認し、船名を伝えると大変喜ばれていたことが印象的でした。(写真 7 参照)

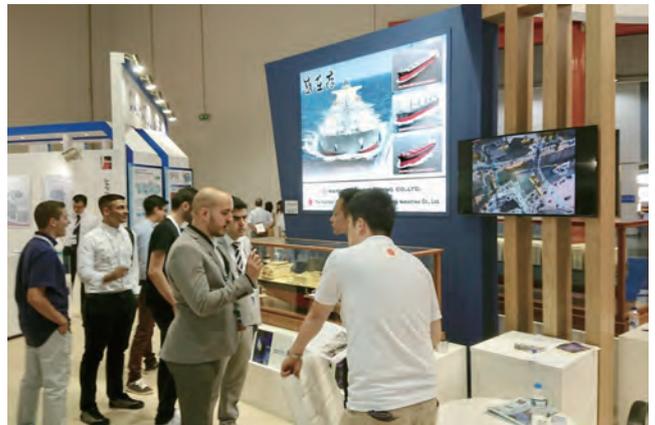


写真 7 説明の様子

モニターで上映していた内容に関して、各社とも会社紹介の動画を放映していましたが、他ブースでは 2018 年 3 月末に完成した最新動画にて最新船型、最新工場を高画質で紹介していたのに対して、弊社の紹介動画は全体的にかなり内容が古く、解像度が現在のモニターサイズにあっていないなど、他社と比べてもかなりクオリティが低いという印象を持たざるを得ませんでした。パンフレットについても弊社は、名村造船所、佐世保重工業、函館どつくの計 3 冊準備しておりましたが、他社は、事業所やグループ会社を含めて見易く 1 冊に纏められていました。こういった点は、今後の改善事項かと感じました。

各造船所ブースには、来訪者に渡すノベルティ (記念品) が準備されており、各社は、タンブラー、色鉛筆、うちわ、ご当地トートバッグなど様々で、来訪者数の確保には非常に効果的だったようです。弊社はタッチペン付ボールペンを準備していましたが、3 色ありその中から選べるということで来訪者には大変喜んでもらえたようでした。

以上のような会社紹介や技術的な説明を行った来訪者以外にも、地元の海事・船舶関連大学の学生の来訪もあり、日本の造船所でのインターンシップに参加したい等の積極的な話もあったほか、一般の親子連れが来訪され、模型船の前で両親が子供達に熱心に話している光景が多く見られ、ギリシャでの海事産業に対する関心の高さを感じました。

また、各国造船所の建造船データを集めているという情報誌の方や、資材・艤装担当者でコンタクトを取りたいという船用機器メーカーから多数の訪問がありました。

船用機器メーカーの話を知ると、中国や韓国での納入実

績があり、本海事展を日本進出の絶好のチャンスとして各造船所に売り込みにきているとのことでした。名刺を交換したメーカーから、現在でも問い合わせのメールがきます。

その他、他国の造船所関係者と思われる方が日本スタンドに展示されている各造船所の模型船を何枚も写真に収めている姿も印象的でした。

3.3 「ジャパン・デー」

6月6日(水)の夜にはアテネ市内の Athenaeum InterContinental Hotel において、清水大使ご夫妻および村山理事長ご夫妻共催のパーティー（ジャパン・デー）が開催されました。（写真8参照）



写真8 「ジャパン・デー」の様子

このパーティーには、ギリシャをはじめとする各国の有力船主、ブローカー、金融関連や政府関係者等、約800名の来場者があったと聞いています。

日本スタンドのアテンドメントメンバーもホスト側として出席しましたが、当然、私はこのような場に参加した経験は無く、最初は雰囲気圧倒されていましたが、我々とは別途ギリシャ訪問中の弊社営業部関係者と合流し、取引先のギリシャ船主の社主らと挨拶を交わすなどしていると、あっという間に2時間が過ぎてしまいました。

3.4 他国のブース

中国や韓国の造船所や舶用機器メーカーはもちろんですが、ヨーロッパの舶用機器メーカーの出展が多い印象で、普段の業務ではあまり聞かないメーカーがほとんどでした。日本スタンドがあったホール以外では、お祭りのようで、集客を狙って多くのブースにバーカウンターや軽食スペースが設けられ、新製品のリリースセレモニーや生演奏などが行われていました。また、日本スタンドと同様に記念品も多数準備されていました。（写真9参照）

中国スタンドでは、広い面積に多数のモデルシップを並

べて華やかに商品PRをしており、会社パンフレットに加えて製品カタログもかなり詳細なものが準備されていました。

一方、韓国スタンドではブースも内向きに構え、少し控えめな印象でした。



写真9 他国ブースの様子

4. ギリシャでの休日

6月1日(金)午前成田空港を出発し、経由地パリを経て、2日(土)午前2時頃にアテネ国際空港に到着しました。到着日は時差調整という事で自由行動となり、参加メンバーと親睦を深めるために、ギリシャ観光に行ってきましたので、少しだけご紹介させていただきます。

開催期間中のギリシャの気温は高く、朝から30~34度程で日差しが厳しく、外ではサングラスと飲料水が欠かせないほどの暑さでした。しかし、日本とは異なり湿度は低いので、日陰では風が吹くと涼しく感じる程でした。

アテネ市街の高台に上がると、白を基調とした町並みで、とてもきれいな景色をみることができます。（写真10参照）

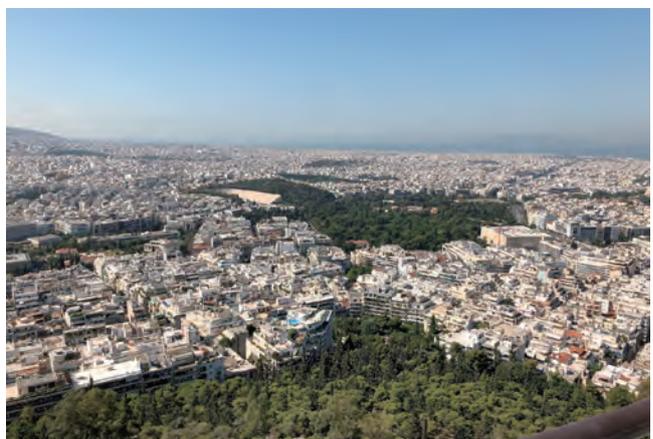


写真10 アテネ市街地

ご存知の通りギリシャは歴史的にも貴重な観光地が多く、

今回滞在したホテルはアクロポリスの丘に近いということで、最も有名な遺跡の一つであるパルテノン神殿を訪れました。(写真11参照)テレビや教科書でしか見たことがなく、実物には感動でした。しかし、こちらにも有名な話ですが何年もかけて補修工事中で、正面にはたくさんの足場が架設してあるところは残念です。



写真11 パルテノン神殿

その後、食事に行きましたが、ギリシャの物価はユーロ圏では比較的リーズナブルだとはいえ食事に関しては、当然お店と料理によりますが、日本より少し高いかな?と言った印象でした。基本的には揚げ物が多く、美味しいのですが、日数が経つに連れて日本食が恋しくなります。

ギリシャはエーゲ海に面しており、エーゲ海には大小2,000以上の島々があります。アテネからフェリーで渡ることができる近隣の島々の中には、遺跡や教会等の観光スポットやピスタチオ、ナッツ、オリーブといった特産物が有名な島もあります。我々もフェリーで島に渡り散策しましたが、天気もよく、この空とエーゲ海は言葉にできない美しさであり、強く記憶に残りました。(写真12,13参照)



写真12 イドラ島の景色



写真13 エギナ島の聖ティナママ教会

最終日には、パルテノン神殿が見えるレストランで輸出組合メンバー及び関係者による懇親会が催されました。(写真14参照)本出張最後のギリシャ料理と共にメンバーと楽しい時間を過ごし、この日は皆と遅くまで語り合いました。



写真14 レストランからの景色

5. おわりに

このような国際展示会の中で来訪者に自社の製品をアピールするという機会・環境に恵まれたこと、この海事展を通して、船主を初め様々な職種の方、他造船所の方と面識ができたことが大きな収穫の一つだったと感じています。

この得られた知見は、今後の業務において非常に有用な経験であったと確信しており、このような機会を与えて頂いた関係各位に感謝申し上げます。